



バンコクにあるスワナプーム空港から1時間半のフライトで、ベトナム中部にあるダナン国際空港に到着した。2023年2月に当金庫と業務提携のある「ダナン市投資促進支援委員会」を訪ねたが、コロナ明けでもあり、担当者から「優遇政策がないと、企業誘致が難しい」と説明されたことを覚えている。

それから3年がたち、市内を散策すれば、海岸沿いには従来のホテル群に加え、各所で新しいホテルやコンドミニアムの建設現場が目に入った。近時は、ダナン市郊外のテーマパークの人氣も高まり、大型のリゾート開発が進んでいることが分かる。港湾都市とし

ベトナム・ダナンにIFC

高付加価値経済へ転換

て海外投資を誘致してきたダナン市は活気のある観光地として、その地位を築いたと言える。

ベトナムはタイ人の海外旅行先として、日本、台湾、香港に並ぶ人氣がある。ダナン市中心部の海鮮レストランでも「タイ語」のメニューがあり、ベトナム人スタッフも片言ながら「タイ語」で料理の注文を受けてくれた。

短い滞在時間であったが、市内中心部から車で40分の所にある世界遺産「ホイアン」の街まで足を運んだ。華僑の街だった時代もあり、中国とベトナムの建築スタイルが融合した木造の建物が数多く残されている。ベトナムの2万ドル紙幣の裏面に描かれている「来遠橋(日本橋)」のある観光エリア

は、国内外の観光客が、食べ歩きを楽しんでいた。街並みには土産



ベトナムのダナンビーチ

店のほか、寺や日本文化を紹介した博物館もあり、飛騨高山の街を思い出した。

こうして来世に残すべき文化がある中、今年1月にダナン市内の第2ソフトウェア工業団地で国際金融センター(IFC)が開業した。IFC開業により、大手金融機関や国際資本、多様な金融商品が集まる場となることが期待されている。世界レベルの専門家がダナン市に居住し、働く場所になることで、イノベーションの促進・デジタル経済の発展に貢献することになるだろう。

世界的にサプライチェーンと資本の再編が進む中、ベトナムは加工拠点から、高付加価値型経済への転換を本気で目指そうとしているのだ。今後もベトナムの進化(変化)については、敏感に感じ取っていきたい。(岐阜信用金庫バンク駐在員事務所長 高橋英孝)